

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)

「問題発見解決能力」の養成

(狙い内容)

学生自らが主体的に問題を発見し、適切な方法に基づいて問題を解決できる能力を養成する。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

スーパー・グローバル・ユニバーシティ実施計画に基づき、より多くの学生が、学部の設定した「問題解決能力を備えた学生」としての基準を満たすことを目指す。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

国際学部は、文部科学省指定のスーパー・グローバル・ユニバーシティの指定を受けた関西学院大学のグローバル化を牽引する立場を踏まえつつ、そのカリキュラム・ポリシーに基づき、問題解決能力を備えた学生を育成していくことを目指していくことが求められている。学部内で開設されているプログラムがこれに向けて十分なものであるかについては現時点では課題もあるものの、学部プログラムとして海外ハンズオンラーニング型の講座開講に向けて検討が具体化しており、大学全体のグローバル化関連プログラム、とりわけ「実践型“世界市民”育成プログラム」とも連動させつつ、着実に上がりつつある成果をより確かなものとしようとしている。こうした現状を踏まえ、明確な目標を設定してこれを達成することを目指すものである。

3. 達成度評価

評価指標	「実践型“世界市民”育成プログラム」における3つのコースのうち、問題解決能力という観点から、「グローバル・リーダー・コース」修了の必修となっている「リーダー養成科目」群及び「国連ユースボランティア実習」「国際学生セミナー」の履修者数合計を指標とする。	評価尺度	A:120名以上 B:110~119名 C:95~109名 D:94名以下
------	---	------	--

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
94名	100名	104名	108名	112名	116名	120名

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

「多文化共生能力」の養成

(狙い内容)

異文化に対する理解力や感受性を養成し、異文化・多文化的環境の中で能動的に行動できる能力を養成する。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

スーパー・グローバル・ユニバーシティ実施計画に基づき、より多くの学生が「多文化共生能力を備えた学生」としての基準を満たすことを目指す。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

国際学部は、文部科学省指定のスーパー・グローバル・ユニバーシティの指定を受けた関西学院大学のグローバル化を牽引する立場を踏まえつつ、そのカリキュラム・ポリシーに基づき、多文化共生能力を備えた学生を育成していくことを目指していくことが求められている。学部内で開設されているプログラムがこれに向けて十分なものであるかどうかには課題もあるものの、大学全体のグローバル化関連プログラムを活用しつつ、こうした面で着実に成果を上げつつある。こうした現状を踏まえ、明確な目標を設定してこれを達成することを目指すものである。

3. 達成度評価

評価指標	関西学院大学及び国際学部の開設する留学科目(海外インターンシップを含む)のうち、多文化共生能力の育成と深くかかわる中期以上の留学プログラムに参加する学生の延べ人数を指標とする。	評価尺度	A:260名以上 B:240~259名 C:220~239名 D:219名以下
------	--	------	--

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
217名	224名	231名	238名	245名	252名	260名

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

「倫理的価値観」の養成

(狙い内容)

キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて「倫理的価値観」を養成する。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

本学部卒業生がグローバル時代の世界において問題解決能力、多文化共生能力、コミュニケーション能力を発揮して活躍していく、前提として、建学の精神やキリスト教の考え方に接する機会を増やし、関西学院発のグローバル人材としての素地を備えた人間をより多く育成していくことを目指す。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

国際学部は、文部科学省指定のスーパー・グローバル・ユニバーシティの指定を受けた関西学院大学のグローバル化を牽引する立場を踏まえつつ、そのカリキュラム・ポリシーに基づき、倫理的価値観を備えた学生を育成していくことを目指していくことが求められている。本学はキリスト教主義に基づき、キリスト教科目を必修としているが、国際学部においては、英語科目のみによる卒業を可能にするという視点から、英語科目である「Christianity A,B」を設置し、また英語によるチャペルアワーを実施している。チャペルアワーは任意出席ではあるものの、建学の精神やキリスト教的倫理観と学部教育課程を結びつけるメッセージを発信する場として重要な位置づけを占めている。こうした現状を踏まえ、明確な目標を設定してこれを達成することを目指すものである。

3. 達成度評価

評価指標	学部実施のチャペルアワー(日本語・英語)の延べ参加人数を指標とする。	評価尺度	A:4000名以上 B:3600~3999名 C:3200~3599名 D:3199名以下
------	------------------------------------	------	--

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
約3200名 (年度末推計)	3400名	3500名	3600名	3700名	3850名	4000名

【A票:教育研究目標4】

(タイトル)

「言語コミュニケーション能力」の養成

(狙い内容)

多様な言語文化の所有者に向けて、言語による受発信を行うことができる外国語運用能力を養成する。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

スーパー・グローバル・ユニバーシティ実施計画を指針としつつ、より多くの学生が学部の設定した外国語力基準を満たすことを目指す。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

国際学部は、文部科学省指定のスーパー・グローバル・ユニバーシティの指定を受けた関西学院大学のグローバル化を牽引する立場から、学生の外国語力の向上をよりいっそう図っていかねばならない。課題としては、入学時の入学時における外国語力の差や英語以外の外国語を第一外国語として履修する学生の存在などがあるが、2012年度以降学部3年次生を対象として毎年実施しているTOEICのスコアは約700点であり、全学平均を大きく上回っている。こうした現状を踏まえ、学部の設定した外国語力を満たす学生比率については明確な目標を設定してこれを達成することを目指すものである。また、豊富な海外経験を持ち英語力の高い学生に向けては、現在開設を検討中の海外ハンズオンラーニング型講座を履修を奨励するとともに、語学力に難のある学生に対しては、全学プログラムの活用等による底上げを図る。

3. 達成度評価

評価指標	学院総合企画会議の基本方針を踏まえ、学部の設定する英語力基準をTOEIC740点(英検準1級相当)に設定し、3年次に実施するTOEICにおいてこの目標英語力基準に到達する学生の比率を指標とする。	評価尺度	A:50%以上 B:47%以上50%未満 C:44%以上47%未満 D:44%未満
------	---	------	--

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
44.66%	45%	46%	47%	48%	49%	50%